

団結して闘おう

新小岩支部大会報告

臨調・行革粉碎！ 三里塚ジェット闘争勝利！

「59・2ダイ改」 「動乗勤改悪」阻止にむけて

新小岩支部、第六回定期大会は、十二月三日機関区講習室において、六〇数名の代議員、傍聴者が結集し、秋の選挙闘争、「59・2ダイ改」と情勢が、ひっ迫しているなかで開催され、団結と闘う方針を確立しました。

総選挙闘争に勝利し、「59・2ダイ改」阻止へ前進しよう
——松崎支部長あいさつ——

大会は十三時十分、松本執行委員の司会により始まり、議長には乗務員分科の的場代議員が選出され、議事が進められました。あいさつにたった松崎支部長は、「この一年間を振り返ってみると、苦しい闘いの連続であった。国鉄再建監理委員会を頭として、反動の嵐が吹き荒れた。乗車証、入浴規制、昇給協定、その他権利剥奪など、政府・国鉄当局の反動攻撃は非常に敵しいものであった。また、動労『本部』は、国鉄当局と一体になり、先兵ともなっており、『動労千葉・国労が昇給協定を結ばないから、差額支給が年内にできなかった』などのデマ宣伝を行って、組織破壊攻撃を企んでいるのは許すことができない。当面する総選挙闘争を勝利し、『59・2ダイ改』に向けて団結をさらに強固にして、新小岩支部一丸となって闘おう」と力強くあいさつしました。

政治闘争・経済闘争を結合し、
中曽根内閣を打倒しよう！

続いて、本部・水野副委員長より「現在の国鉄にかけられている攻撃は、中曽根内閣の戦争体制づくりの基本的国家政策としてかけられている。だから、労働者は、政治闘争を経済闘争と共に闘うことで、政治の流れを変えなければならない」とのあいさつを行いました。
続いて、石井東京都議、中江船橋市議、波沢選対の穴原氏、葛飾区労協の鈴木氏、市川労金の関氏ら来賓のあいさつを受けて、一般経過報告、会計報告、一九八三年度運動方針案、支部規約の一

支部通信員・発



貨物合理化粉碎！
新小岩支部 128名は団結して闘うぞ。

部改正案等が提案されて、活発な質疑応答が行われました。

「闘って取る」ことを肝に銘じよう
質問の内容は、①78年度採の子科と一般採の昇給の格差について、②本部予算における人件費について、③新小岩支部の動員の事態について、④新採の展望について、などがあり、支部執行部本部執行部より、それぞれについて答弁がなされた後、満場一致の拍手により方針が確認されました。
新旧役員のあいさつのうち、的場議長の「闘って取らなければならない」と言うことを肝にめいじて闘おう」との決意あふれる言葉を全員が確認して、組合歌合唱、松崎支部長の音頭による団結シンパローで大会は成功裡に終了しました。

政治的報復処分の本性がありありと露呈

「ジェット延長阻止」81・3スト処分」公判闘争

第11回「81・3」公判闘争は、12月7日千葉地裁で開催され、藤田（当時千鉄局総務部長）証人の口頭弁論が行われた。

主尋問で、藤田証人は、われわれの3月ストに対する当時の世論形成、つまり、ブルジョアマスコミの批判論評をとりあげ、解雇処分の有効性を主張した。

また、この間、動労千葉が主張していた不当労働行為に対して藤田証人は、「81・3ジェット燃料貨車輸送延長阻止闘争は政治ストであり、国鉄本社より『嚴重処分せよ』との指導がなされたため、千鉄局はこの指導に準じた」として自らの責任回避の主張に終始した。このように、3月スト処分が断じて許すことのできない政治的な処分

であったことがますます明らかになってきたのである。次回公判は、この証言に対するわれわれ動労千葉側からの反問が行われる。このように明確になつた不当処分攻撃を粉碎し、81・3闘争勝利の地平を押し上げるためにも、次回公判闘争に決起し、国鉄当局の不当性、動労「本部」革マルの反労働者的スト破り行為を断罪しようではないか。